



## 夏に多い子どもの感染症

短い梅雨明けのあとの連日の猛暑にはウンザリしてしまいます。くれぐれも熱中症にはお気をつけ下さい。夏になると毎年流行する感染症があります。その主な原因ウイルスはエンテロウイルスとアデノウイルスです。エンテロウイルスの一種であるコクサッキーウイルスにより発症する病気の代表が手足口病であり、アデノウイルスの代表がプール熱(咽頭結膜熱)です。

エンテロウイルスにもアデノウイルスにも多くの型があるため、上記の病気以外にも高熱だけの風邪、扁桃炎、胃腸炎、はやり目などの病気を引き起こします。これらの感染症を総称して夏風邪と呼ぶことができますが、夏風邪は咳や鼻水がなく突然の高熱で発症することが特徴です。そのため熱中症と区別がつきにくいことがあります。熱中症を診断するには、発症前の体調や症状、発症時どのような環境にいたかが重要なポイントとなります。

また、プール熱(咽頭結膜熱)は、学校保健安全法の第2種感染症のため集団生活をしている場合は出席停止の疾患です。病気が疑われる時は必ず医師の診断を受けるようにしてください。

### 乳幼児はどれくらい風邪をひく？

小児科の教科書には、乳幼児は1年間に6~8回の風邪をひき、そのうちの10~15%は12回以上も風邪をひくと書かれています。

2011年から2016年にかけて東京都内の3ヶ所の保育所で行った年齢別の欠席状況の調査によると、0歳児では1年間平均19回(月平均では1.5回)、1歳児で12回、3歳以上でも5~7日の体調不良による欠席があったそうです。

入園後に何度も風邪をひくので、どこか体に悪いところがあるのではないかと心配される親御さんも珍しくありません。そんな親御さんには参考になるデータではないでしょうか。



### 6月の感染症情報

溶連菌感染症、感染性胃腸炎が流行の主体でした。

咽頭結膜熱、百日咳の散発的な発生がありました。5月から流行していたパラインフルエンザの発生も少なくなりました。RSV、新型コロナ、インフルエンザの発生はほぼ皆無です。



### 6月の利用状況

6月の利用延べ人数は106人、1日平均利用人数は5.0人でした。年齢別では、1歳児が30人で最も多く、次いで3歳児の18人でした。疾患別では急性上気道炎が58人で最も多く、次に急性気管支炎28人、感染性胃腸炎7人の順でした。急性上気道炎はライノウイルスによる普通感冒、急性気管支炎はパラインフルエンザの感染によるものと思われました。

まだ7月というのに連日の猛暑にはこの先が思いやられます。くれぐれも体調管理にはご注意ください。7月に入り感染症は少し下火になっています。